２０１９年度市政懇談会　開催結果概要

●日　時　令和元年６月４日（火）１８時～
●会　場　まなぼっと幣舞
●出席者　２６人

〔市長より説明　（別途資料参照）〕

〇つながる　まち・ひと・みらい　ひがし北海道の拠点都市・釧路

- **釧路市の現状と課題**
- **釧路市まちづくり基本構想**
- **雇用の拡大、人材の確保**
- **子育て環境に係る施策**
- **学力向上に係る施策**
- **防災に係る施策**
- **都市機能向上に係る施策**

〔事前調査による地域からのご意見等〕

■カラス・動物対策について

カラスやエゾシカ、キツネが町内会を行き来している。これらの動物などが住宅地に入り込まないような有効な取り組みはあるのか。

【市民環境部長】

カラスによる被害につきましては、環境保全課環境衛生担当でのカラスの巣の撤去件数は、年間４７０件ほどですが、昨年は６１９件となっています。なお、今年度５月末までの件数は約２００件となっています。通報への対応の際には、過去に通報があった場所や巣を作りやすい公園や街路樹などを巡回し、土地・施設の所有者への連絡を行うなど、早めの対応に努めています。お困りの点等ありましたら、環境保全課 環境衛生担当へご相談いただきますようお願いいたします。

キツネの苦情相談に関しましては、エキノコックス感染症予防のため、現地を確認し捕獲ワナの設置、巡回パトロールの実施をし、捕獲数は４６頭となっております。市内の保育園・幼稚園の砂場については、キツネや野生生物の糞による汚染を防ぐため、各園で砂場にシートをかけて感染症対策を行っています。こちらもカラス駆除同様、環境保全課 環境衛生担当へご相談いただきますようお願いいたします。

エゾシカ対策につきましては、現在、春採市民の森での監視カメラによる調査を継続しているほか、昨年１０月には春採湖周辺での聞き取り調査を実施し、エゾシカがどういう経路で市街地に侵入してくるのかについて、分析をしているところであります。この調査結果も踏まえながら、今年度、北海道では、市街地でのエゾシカ捕獲事業を行う予定であると聞いております。市といたしましても、北海道と連携しながら対策を進めてまいりますが、詳細が決まり次第、地域の皆様に、お知らせとご協力のお願いをさせていただきたいと考えております。

このような野生生物による被害の防止や住宅地への侵入防止に関しては、即

効性のある対策は難しいのが現状でありますが、巣をつくる前に撤去するなど、適切な時期に駆除したり、巡回パトロールを継続して行ったりするなど、細やかに対応することで、地域での被害防止や安全・安心の確保に努めてまいりたいと考えております。

■高齢化による町内会役員の担い手減少対策について

町内会の高齢化によって、町内会役員の担い手が減少していることから、若手のサラリーマンでも、ストレスなく町内会の活動に協力できるような環境づくりを進めて欲しい。

【市民環境部長】

町内会の加入率は漸減傾向にある中で、会員の高齢化や役員のなり手不足などは、大きな課題であると認識しており、引き続き市連町と連携し、町内会の加入率の向上に取り組んで参りたいと考えております。

また、手続きについては、Web に限らず、これから地域を支える現役世代が申請しやすくするため、申請書の簡略化等、負担を少なくするような手続きのあり方について検討して参りたいと考えております。

このように、サラリーマンや現役世代が、参加し易い環境を整えることなど、町内会が抱えている諸問題に対してアドバイザーを派遣し、相談にのる事業を市連町が実施しており、市として、アドバイザーが地域に根差した活動ができるよう、積極的に関わっていきたいと考えております。

■町内会への加入促進に係る具体的な取り組み方法について

町内会加入者が少なくなってきていることから、加入を促進するような市の取り組みはないのでしょうか。

【市民環境部長】

町内会につきましては、地域コミュニティの中心であり、まちづくりの担い手として大きな役割を果たすものであり、まちづくりを進める上で、欠くことのできない重要なパートナーと位置付けております。

そのために、広報くしろにおいて特集記事の掲載や街頭啓発など、様々な加入促進を行って、未加入の方々にも町内会の果たす意義や役割をご理解いただけるよう、努めているところです。

また、各町内会が抱えている諸問題に対してアドバイザーを派遣したり、アパート・マンションの入居者については、宅建協会釧路支部との協定や地域企業への協力を依頼したりするなどの取組みを進めており、今後も市連町と連携し、町内会活動の推進や加入率向上に、取り組んで参りたいと考えております。

■地震災害時の避難経路の整備、訓練について

貝塚団地へのアクセスは貝塚踏切のみで、徒歩においては武佐人道橋があるが老朽化著しい状況です。災害時に車が渋滞し、避難できないことから、早急に迂回路の建設を切望します。現実的にどのように避難するのが良いか、防災危機管理課より提示して欲しい。

【総務部長】
釧路市では、海溝型地震が発生した場合、地震発生から津波到達まで約３０分程度時間を要することから、どの地域の皆様にも、車による渋滞に伴う逃げ遅れを防ぐため、徒歩を原則として時間がある限り浸水しない高台や、できるだけ高いビルを目指して避難していただくよう、お願いをしております。
私も、このたびの要望をいただき、先日、現地を確認したところでありまして、貝塚団地町内会の皆様の避難方法等といたしましては、徒歩により貝塚踏切または貝塚人道跨線橋を利用して、青陵中学校または武佐小学校の２階以上に避難いただくことをお願いいたします。

●質疑応答
【参加者Ａ】
私は鶴ヶ岱児童センターの運営委員をしております。児童館の指導員の数が、今、非常に少ないという話題が先日の運営委員会の中であり、指導者の条件として保育士や教員免許を持っていなければいけない部分があり、待遇も嘱託職員ということで、その辺も含めてなり手がいないのかと思います。これについて、任用要件の緩和等はできないものなのでしょうか。
【こども保健部長】
児童館には、児童厚生員がおりますが、４月の当初から、全部で１０人ぐらい足りない状況になっております。自己都合等で年度末に辞められた方が多数いらっしゃいまして、それで４月に入ってから、随時、広報くしろ、ハローワークのほか、児童厚生員の方々の繋がりで保育士免許や教員免許を持っている方々に声をかけていただいております。また、４・５月に３人、現在働いている方や、今後７月頃から復職してくる方もおりますので、若干ご迷惑をおかけしている部分もありますが、あらゆる手段を使いながら、人材確保に努めております。しかし、指導員不足というところで、資格がない、経験のない方を助手として雇うかということになると、やはり子どもさんを下校時からお預かりしているというところでいけば、安全面であるとか、そのようなところに目が届く方々が適任であると思いますので、少しお時間が掛かるかもしれませんが、人材確保につきましては色々なことをさせていただいておりますので、ご理解いただければと思っております。

【参加者Ｂ】
先程、町内会の加入促進に関わる説明がありましたが、もう１０年以上２０年ぐらいになりますが、非常に取り組みを強化しているにもかかわらず入らない、辞めるという状況です。これは、世間的に言えば、色々な事情が皆さんにあることはわかるのですけれど、本当にどんなに町内会で取り組んでも、市でも取り組んでも、やはりこの状況は変わりません。まして入らない方が多くなったことを聞いています。それで、先程お話にありましたアドバイザーというものは、市の方でどれぐらいの人を配置して、このような相談にのって進めているのかをお聞きしたいです。

【市民環境部長】

アドバイザー制度は、釧路市連合町内会の方で取り組んでおりまして、会長と副会長、今までなかなか運営がうまくいかなかったところを立て直した町内会長の方でありますとか、また新たに立ち上げた町内会長の方等、そのような経験を活かしていただき、それぞれの地域の問題があった場合に、皆さんがチームを組んで、相談対応やアドバイスをしていくという取り組みを進めているところです。これは、釧路市連合町内会独自で進めている取り組みであります。それに市の方もバックアップしているといった状況であります。

【市長】

町内会の加入促進については、市長就任の時から、お話をし、一生懸命進めてきたのですが、なかなかうまくいきません。それでも、若い人たちが新たに町内会を作ったりする動きもありますので、しっかりバックアップしていければと思っております。ただ、その中でも社会情勢を見ていかなければいけないですし、そのことを認識して我々もどのような仕事をするのかを考えなければいけません。例えば、市役所等がやればやるほど町内会に入らなくてよくなります。もちろん、市民サービスの充実というものは、やらなければいけないことです。常に公として、その方々を対象としながら進めていくものでも、個に対して、一人ひとりの状況を踏まえながら対応する行政は必要なことだと思います。しかしながら、ありとあらゆることもそのようになってしまった時に、逆に社会と分断されていてもいいという状況を築き上げる恐れも考えなければいけないというお話です。今回の川崎市の事件を見ていきましても、人と会わないということがあります。人と会わないでいいわけがないのです。ところが、今は、一言も話をしないで買い物ができます。例えば、パソコンで注文したら、通信販売などで配達されるというものです。人との交流もなく買い物ができることを、朝から毎日やるということは、どうなのだろうと思います。人とも交流しないで生きていけることは、ありえないという思いを持っておりまして、やはりそこが問題です。ひきこもりが問題ではなくて、人と交流しなくてもいいような社会というものは、逆に個々がとんでもない劣化をしてしまいます。歩かなければ足を悪くしてしまうように、話をしなかったら言葉も出てこなくなります。やはり、そういうところが、逆に問題になっていると思っております。やはり社会という語源は、社交から来ていることがありまして、だから人と交流するということです。人と交流しなくて良い社会なんて、社会ではなくなります。やはりそういう部分についても、色々な場面の中で話をしていく機運というものが出てきているのだと思っております。故に、まさに若い世代の人たちから、町内会を作りながら街のことやっていこうということや、子どもたちの環境という部分も出てきていると思っております。そのような意味で、しっかりと取り組んでいければと思っております。あとはもう一つ社会全体で、町内会に入らなければ駄目だという機運が、全国の町内会の問題として出てきております。そこで全国で様々な事件が起きているのでありますけれど、特に高齢化社会等を迎えていった時に、本当にどうするのかということです。誰も関心を持たない、誰からも関心を持たれない人生って良くないに決まっています。つまり、そういうところに入りながら進めていこうという、このような機

運にすることによって、町内会の加入ということが当たり前だという社会に繋げていけるのではないかと思い、私はとにかく、継続してどのような状況であろうとも言い続けていきたいと考えておりますので、ご面倒をお掛けしますが、よろしくお願いいたします。

【参加者Ｃ】

経済関係の話を聞きたいと思います。一つは、観光立国ショーケースです。これも釧路の経済には、大切な内容ではないかと思います。最近はアイヌ文化を紹介する舞台等を、行政サイドも色々な工夫をこなしているように見えるのですが、なかなか現実的に何をやっているのかということが見えないという点です。

二つ目は、バルク港湾も経済的なもので、この釧路を担うものだと思っております。ガントリークレーン等、大きなものが設置されましたが、その後の話は、あまり新聞紙面にも取り沙汰されておりません。やはり基礎ベースの話なので、これを進めていくと充分効果があり、職場が改善化できるような要素なのではないかと思います。現状について、どのようになっているのか、報告を聞きたいと思います。

【市長】

観光立国ショーケースは、３年前に、長崎市と金沢市と釧路市が選定されました。地方都市の中でインバウンドと言われております外国の旅行者の方々をしっかり呼び込むモデルになる街ということで、２０２０年まで実施しているところです。インバウンドということで、外国のお客様についての昨年の速報値でありますが、やはり胆振東部地震やブラックアウトの影響がありましたので、少しマイナスになったのですが、最終的にはプラスに転じ、１６万人の外国人の方に来ていただきました。観光客といいましても、昨年はマイナスのダメージがあったのですが、トータル的には６万人ぐらいプラスということで、５３０万人の観光客が、去年釧路の方に来ていただいたという形になっております。観光立国ショーケースの場合は、外国のお客様でありますから、ここが２０２０年に２７万人という目標を掲げておりまして、今そこに向かって進んでおります。あと１１万人ということで、大丈夫かと思われる方もいますけども、こと観光に関しましては、順調に伸びていくのではなくて、当たるというか、ことにはまるというか、そのような面で全国の色々な動きを見てきましたが、あるところは６００倍になったということがあります。２０２０年の来年、２７万人に向けて、しっかり進めていこうと考えております。そこの中で、どうするかということで、先程出ましたアイヌ文化も含めた情報発信を進めていこうということです。阿寒湖畔には、今、６０万人ぐらいの宿泊がありますが、キャパシティとしては、昔は１００万人を超えておりました。このような状況から、その既存のキャパシティを活用していこうという形になっております。釧路市内にも非常に外国の方が増えているのですが、実際かなりホテルもいっぱいでありまして、独自に新たに展開している方もいるのですが、お客が多い状況です。今年の１月ですが、普通のホテルが全く取れなくて札幌や東京と同じように普段の倍ぐらいの金額になっているということが、釧路にもあったと

いうことで驚きました。そこで、阿寒湖畔を使っていこうということで３月にイコㇿというアイヌの専用シアターの中に、デジタルアートを使った映像を作りあげて発信していきました。７月５日からは、国立公園の自然の中で、デジタル映像といった色々なものを見せていく「カムイルミナ」というコンテンツを出して、多くの方に来ていただこうということです。阿寒湖畔で行うものは、「カムイルミナ」というものでありますが、実は日本で３カ所目になります。阿寒湖畔は、国立公園の中で行うもので、もう一つ長崎の「アイランドルミナ」というもので、伊王島で行っております。そしてもう一つは大阪城と、この３カ所です。これは全てデジタルの映像を使うのですが、テーマが違う形で行われております。こちらのベースとなるのが、カナダの会社なのですが、カナダの全く田舎のところで、自然の中でそのようなものを構築して、そこで実施した瞬間に７０万、８０万という方が来ているというものを今回行うということです。長崎に見に行けば、次は大阪も行こう、そして、阿寒湖の「カムイルミナ」にも行ってみようというような情報を出していきながら、進めていこうと思っています。このような情報発信を行って、観光客の増加に繋げていきたいと考えております。他には、アドベンチャーツーリズムという自然の中で色々な体験をしていただくというものが、今、世界中で非常に人気がありまして、そこにアプローチしていきたいと進めているところであります。また、釧路市では、幣舞橋のライトアップ等で、夜の賑わいを創出することによって、少しでもまた色々な豊かな時間を作っていこうということです。今、観光についてはそのような形を行っているということでありまして、２０２０年、来年の外国人観光客インバウンド２７万人達成に向けて、取り組んでいるところです。

バルク港につきましては、おかげさまで昨年の１１月に完成式典を行い、上物の色々な施設の検査等があり、最終的に供用開始したのが３月末で、動き始めているものです。バルク港というものは、コンテナ貨物とばら積み貨物があって、そのばら積みのことをバルクと言っております。日本では石炭、穀物、鉄鉱石の３種類のバルクを国内に拠点港を設定して、国際バルク戦略港湾ということで、整備を進めていくことになっております。その中で、釧路が穀物の分野でバルク港としての整備が進み、昨年１１月に岸壁等が完成し、この３月に上物の検査等を終えて稼働している状況です。バルク港として選定されたのは、北海道の中では釧路港１港だけで、何故選定されたかというと、アメリカと一番近いのです。大体、成田空港を出ても、関西国際空港を出ても羽田空港を出ても、アメリカへ行く時は、釧路の上を通って行きますから、これが一番近い距離なのです。船もアメリカを出た場合に、最初に釧路の近くに来るということです。船は、一日いくらというお金を支払うので、東京に運ぶとなると釧路－東京は３０時間ぐらいかかるので、東京に運ぶよりも釧路に運んだ方が安く運べるという形になっております。また釧路が、牛などの農業地域、酪農地域という形で穀物を釧路に持ってくるということで、バルク港に選定され、３月に供用開始したということであります。この２カ月の間に、既に１０隻の大型船が入っておりまして、ほとんどフル稼働という状況になっております。また、バルク船を見ますとさらに大型化しているのです。やはり小さな船で物を運ぶとコストが掛かるため、大きい船で運ぶとそれだけ安く運べるというこ

とで、大きくなってきている状況です。今までは、港の岸壁の深さが、マイナス１２メートルだったので、がんばっても３万、４万トンの船しか入れませんでした。世界の標準は５万トン以上の船で、もっといえば１０万トンといった形になってきており、釧路港がマイナス１４メートルに対応したということで、１０万トンぐらいの船も入れるようになりました。このまま行きますと１年間の扱える量もかなり増えると思います。このひと月の数字で行きますと、対前年の１５％アップになっており、約２万５、６千トンの扱いが増えております。そのような意味でも良い形で成果として挙げることができるかと思っております。併せて、今、民間会社が飼料工場を作っております。今のところは順調に、このように使用されているというところです。

【参加者Ｄ】

釧路の活性化という点で、お願いとどのようであるか聞きたいのですが、今、釧路には大きなクルーズ船が大体８隻ぐらい入りますよね。今年も既に２隻、３隻入っており、釧路にやってくる方が１，０００名、２，０００名いらっしゃいます。その方々は、朝早くに入って、夜出て行きます。その際に、船を降りてから、バスで道東地方の観光に行かれる方もいます。私が、朝８時頃、橋の辺りを歩いた際に、ＭＯＯ近隣を散策しているお客さんもおりまして、日本語で、釧路ではお土産をどこで買ったらいいでしょうかと尋ねられたことがあります。

ＭＯＯの開店時間は１０時で、北大通の街中も９時以降にならなければお店が開かない状況です。そういうことで、せっかく船が入ることがわかっているのですから、釧路の活性化のためにも、ＭＯＯを早く開けてもらうとかできないのでしょうか。今、北大通に我々が行っても、何か買いたい等でお店に入る気が全然しないのです。ローソンが１軒あるぐらいで、あそこにお客さんが来ましても、なかなかお土産は買えません。

それからお祭り等でも、期間中の最終日は早く終了することがあるので、そうすると午後８時頃まで街の中で色々な行事を実施しても、ＭＯＯが閉まっている状況です。何か行事等に合わせて時間をずらす等できないものでしょうか。そうすれば、街に落としていくお金があると思います。

【都市整備部長】

今言われたとおり、ＭＯＯは、当初１０時に開店でしたが、せっかく来ていただいたお客様の行く場所がないということで、ＭＯＯの方に、市の方からも働きかけまして、全日程ではないのですが９時から開けていただくとか、ＥＧＧの方も入れなかったものを開放してお休みいただくであるとかを少しずつ進めております。また、和商市場につきましても、西港や耐震岸壁から直接行くバスも運行していただいて、できるだけ釧路市内で色々な経済活動ができるような取り組みを少しずつ進めているところです。

今年は、クルーズ船が１６隻入るのですが、各船の入る時間もまちまちで、７時に入るものもあれば、１０時に入るものもありまして、それらに全部を合わせるということはなかなか難しいことですが、それに向けて関係団体に働き掛けをして、経済関係者の方にもご尽力いただいて、少しずつ進めているとこ

ろです。

【市長】

私どもも、どのように使っていくかということで、相談しながら進めております。昔は新年度に入って今年入る船は何隻ですといった発表をしていたのですが、今は決まった段階からもうオープンにしていこうと取り組んでいるところです。先程お話したように、日曜日の和商市場の休みの状況を解消して合わせましょうと調整をしたり、ＭＯＯの方も時間等を調整したりなど対応しているところであります。

実はクルーズ船は、こういう仕組みになっております。クルーズ船が入りますと、バスが用意されていることがありますけれども、実はこれはオプショナルツアーというものなのです。例えば、釧路から阿寒湖畔や厚岸に向かって行って、そこで昼食を取りながら観光等をして、出発するまでに戻って来るというものです。これは、全て船を運営している会社が行っているもので、ここには、我々は、全く関与ができません。船に乗っている人たちは、船の中のことについては、全てそちらが行うというルールになっておりまして、その中で、私ども釧路ではこのようなことをやっておりますよということは、だめな仕組みとなっております。このような状況で、例えば１，０００人乗りの船で、バスがたくさん来るということまでは、向こうのビジネスとなっているのですが、全員がそこに行く訳ではありません。その中で、４００人残ると、残った人たちが船から出てきます。その方々に対してアプローチする形となっているということで、船の前で「釧路港おもてなし倶楽部」の方々がおもてなしをしたり、各関係機関が情報発信をしたりしております。また、船から出た際の Wi-Fi 環境を含めて、色々なお店から情報を入れて欲しいと、私どもが作っているところであります。他には、このようなスケジュールも全部、商店街等に、私どもが説明会で出しておりまして、何とかそこに色々な形で取り組んでいただければありがたいと思っているところであります。

クルーズ船については、２年前ぐらいからプランニングされますので、私どもも来年、再来年の営業を行っております。そのために、例えば今までは、新年度になって港まつりの総会で港まつりのスケジュールが決まる、大漁どんぱくもそれから決まるといった形であったのですが、ここを変えていただきまして、全部日程を固定して、始めから決めておいてくださいということであります。８月の第１金・土・日は、港まつり、今回の大漁どんぱくについては、９月の第２金・土・日の１３、１４、１５日となっております。先に色々なものを決めておいていただくことで、そのようなものと組み合わせながらＰＲできます。また、これは周りの町村にも言っております。例えばカキまつりも全部日程を決めてしまうといったことです。そうすると、我々も一緒になって進めて行くことができます。色々なお祭りでも、商店街のイベント等でも、そのような情報があれば、我々は全部まとめて、このようなことを行っていますという情報提供をしたいと思っております。このようなものを活用しながら進めていきたいと考えております。